

第4回松山市総合計画審議会議事録

日 時	令和6年7月11日（木）午前10時00分～午前11時45分
場 所	松山市役所別館6階 第3委員会室
出席者	最終ページ参照

1. 開会

2. 議事

（1）第3回審議会の振り返り

檀会長

- ・ 議事の「第3回審議会の振り返り」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

（事務局説明）

檀会長

- ・ この件について、何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

一同

（質疑・意見なし）

（2）第1～3回審議会での意見総括

檀会長

- ・ 続いて、議事2点目「第1～3回審議会での意見総括」についてです。前回の審議会までで、本審議会の審議対象である、基本構想について一通りご審議をいただきました。
- ・ 本日はこれまでいただいた、基本構想（素案）に対する皆様のご意見を集約し、次回第5回審議会において、答申案として皆様にご承認いただくにあたり、答申書の記載内容の元となる資料をお示しします。この点についてご意見をいただければと思います。

資料6にはできる限り皆様からいただいたご意見を反映しておりますが、複数の委員の方から同様の趣旨でいただいている場合はまとめたり、表現について調整をさせていただいたものもございますので、その点につきましてはご理解、ご了承のほどよろしくお願いします。

なお、事務局からの説明では、資料4 基本構想（素案）、資料6 意見総括（案）を使用しますので、お手元にご用意願います。

まず、資料全体の見方、構成についてご説明させていただいたのち、ある程度のところで区切って順次ご意見をいただく流れで進めていきたいと思っています。

それでは、事務局から説明をお願いします。

資料6全体の構成に関する説明の後、「1. はじめに」と「2. 総括的事項」までで区切ります。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ 資料6の1ページまでで、ご意見やご質問等がありましたらお願いします。
「1. はじめに」と「2. 総括的事項」という大枠の部分について、皆様からいただいたご意見を集約しています。答申書の作成にあたってはいただいた意見を文章に落とし込みます。
- ・ ご意見やご質問等はいかがでしょうか。

一同

(意見なし)

檀会長

- ・ それでは続いて、「3. まちづくりの理念について」と「4. 将来都市像について」を、事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ ここまでについて何かご質問やご意見等がありましたらお願いします。

大石委員

- ・ はじめに基本構想（素案）を見た時に、将来都市像の「SETOUCHI」がアルファベット表記であることに違和感があり、他の委員からも同様の意見がありましたが、追加で意見があります。
- ・ 「まちづくりの方向性」などに関する審議をする中で、将来都市像の「SETOUCHI」をアルファベット表記にすることについて理解が進みました。
人や自然、観光などについて、松山が「SETOUCHI」の物質的、精神的両面での「拠点」になることが考えられると思います。
私は海外に住んでいた経験があり、松山空港に着陸する前に飛行機から見降ろすと見える、瀬戸内海の穏やかで波が立っていない風景は、高い波と水平線の海外の海と比べても、独特な松山のよいところで、非常に松山を感じるころだと思います。
松山出身の地元の人が気付かない魅力が、外国の方にとっては魅力に感じられると思うため、松山市と世界のつながりという点で「SETOUCHI」というキーワードを打ち出してほしいと思います。
- ・ また、「SETOUCHI」をアルファベット表記にすることについて、例えば、タイ語の表記は特殊で、日本人にとっては読むことが難しいですが、アルファベットで補記されていると、自分たちにも読める文字で表記されていて安心感があると思います。

日本語ではなく、アルファベットだから、私たちの文化ではない、なぜアルファベットで書くのかということではなく、多文化共生社会が進む中で、排他的なリアクションがなくなるよう、世界共通語のアルファベットで書いてほしいという思いもあります。

- ・ 松山城や道後温泉など様々な観光資源がある中で、なぜ「SETOUCHI」なのかという人もいるかもしれませんが、既にあるものにはもう力を入れているので、新たに「SETOUCHI」という、今まで見えにくかったものに未来を託して、新しい挑戦をするという意味でも、「交流拠点」という言葉やアルファベット表記とすることに期待しています。

檀会長

- ・ 敢えてアルファベットで表記している点について、大石委員からのご指摘の通り、どの国の人が見ても読めるという意味で、グローバルな表現であり、なかなか面白くてよいと思っています。
- ・ 「SETOUCHI」を拠点として、各地域とのつながりや人と人のつながりができ、物流だけではなく仕事や情報交換など、つながりがどんどん広がっていくほか、海外から来た人にとっての出入口になるということだと思います。
- ・ アルファベット表記は、「SETOUCHI」から世界へとつながっていくキーワードとなり、市民に向けてのメッセージ性もあると思います。
- ・ 事務局で最終案を作成する際に、市民にわかりやすい最適な表記を含めて、検討していただければと思います。

岩田委員

- ・ 「3. まちづくりの理念」の③に「市民にも市外の人に対しても、松山市の特徴や将来めざす姿を分かりやすく示す」とあり、市内だけでなく、市外の人にもアピールするということを明示しているのだと思いますが、この部分だけ「市外の人」について言及されていると違和感があるので、誰に対する内容なのか、対象の表記を統一するか、市民のみに絞った書き方をするか検討した方がよいと思います。

檀会長

- ・ 「市外の人」という表現は差別化されていて、表現について違和感があるというご指摘かと思っています。
- ・ 最終案に落とし込む段階で、表現は検討したいと思います。
- ・ その他ご意見等いかがでしょうか。

一同

(意見なし)

檀会長

- ・ それでは続いて、「5. まちづくりの方向性について」の全体と(1)「人」がつながるについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ この件に関して、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。

高田委員

- ・ 「人、まち、仕事」のそれぞれのまちづくりの方向性について、「まち」のところでは「SETOUCHI」が打ち出されているのかもしれませんが、将来都市像に「SETOUCHI」という言葉が入るのであれば、「人」についても「SETOUCHI」のハブとして松山市が機能するために、リーダーシップをとれるような人材を育成するといった内容を入れたほうが、全体的なバランスを取ることができて、将来都市像の「SETOUCHI」に全体の目標として集約できると思いました。

檀会長

- ・ 「人」のところについても「SETOUCHI」というキーワードを入れたほうが、全体としてバランスがよいのではないかというご意見をいただきました。最終案を作成する際に検討したいと思います。
- ・ その他お気づきの点はございますか。

一同

(意見なし)

檀会長

- ・ それでは続いて、(2)「まち」がつながるについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ この項目に関して、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。

堀副会長

- ・ 個別意見①、②に関連して、一般市民からワークショップ等で「自然」という意見が多かったことを受けて、山間部や離島などの多様な地域の特性や自然をいかすことだけではなく、まちと自然がどう共生するかという視点についても言及すべきではないかと思います。
- ・ また、過去の審議会で、川についても記載すべきだという意見がありましたが、「SETOUCHI」を打ち出すのであれば、海の環境について言及すべきではないかと思います。
- ・ 港湾は県の管轄かもしれませんが、松山市が関与している部分もありますし、できることがあるのではないかと思います。「SETOUCHI」の海の話をしているのに、そういった視点が

入っていないことは残念であるため、検討してほしいと思います。

檀会長

- ・ 「SETOUCHI」ということで、海も確かにポイントになりますし、山や川も含め、バランスを考慮した表現は大切だと思います。
- ・ 自然環境というのは、市民の意見の中でも大きなキーワードとして取り上げられていますので、自然にフォーカスするだけではなく、まちや人が自然とどう共生し、つながっていくかということも、落とし込めればよいと思います。
- ・ 最終案で調整をさせていただきたいと思います。

竹下委員

- ・ ⑥と⑦について、⑥では「文化・スポーツ・芸術」に関する記載が冒頭にありますが、文章の最後は「選手が育つ土壌」に関する内容で結ばれているので、一般的にはスポーツのことを書かれている印象があります。
- ・ 一方で、⑦でも文化や芸術について書かれているので、⑥には文化・芸術についての記載は必要ないと思いました。

檀会長

- ・ ⑥、⑦の文言の整合性の問題かと思いますが、⑥は確かにスポーツについて書かれていて、⑦では文化・芸術について書かれているため、整合的な表現となるよう、うまくまとめることができると思います。
- ・ その他はいかがでしょうか。

一同

(意見なし)

檀会長

- ・ それでは続いて、(3)「仕事」がつながるについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ この項目について何かご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

高田委員

- ・ 先ほどと同じになりますが、ここにもやはりキーワードの「SETOUCHI」を入れたほうがよいと思います。

檀会長

- ・ どこに入れるかについては調整が必要だと思いますが、キーワードとして入れることで全体的なバランスが取れてよいと思いました。
- ・ その他にご意見等はいかがでしょうか。

高岡委員

- ・ 表現の仕方や捉え方はそれぞれなので一概には言えませんが、グローバル化やインバウンドの交流拠点を目指す中で、「SETOUCHI」というアルファベット表記になっていると思います。
- ・ 確かに「SETOUCHI」はグローバル化しつつあると思いますが、総合計画の中で、グローバル化やインバウンドの対応をしていくのは松山なので、アルファベット表記にすべきは「まつやま」ではないかと思いました。

総合計画は、松山の未来をつくっていくための計画だと思うので、既にグローバル化が進んでいる「SETOUCHI」に松山が合わせていくのではなく、瀬戸内に対して追いついていく「まつやま」がアルファベット表記のほうが意味合いとしてはしっくりくると思います。
- ・ 一方で、ひらがな表記の「まつやま」も大事にしたいという思いもあります。

檀会長

- ・ 確かに松山が中心になる必要があるため、「SETOUCHI」の拠点として、松山の存在意義が、薄まらないように文案として落とし込みたいと思います。

大石委員

- ・ 先ほど、なぜ「まつやま」がアルファベットではないのだろうかという意見がありました。が、実は私も同じことを考えていました。
- ・ 松山のシンボルになりうる「瀬戸内」を代名詞のような意味合いでアルファベット表記にしていると理解しています。

個人的にも、クリエイティブや新しいことにチャレンジするというマインドが好きで、松山の中に、松山城や道後などいろいろなものが詰め込まれている中でも、シンボルや思い浮かぶイメージを1つ出すのであれば、「瀬戸内」が世界に発信できるものだと、自分の中で落とし込んでいました。
- ・ 「松山」をアルファベット表記にするという意見にも賛成なのですが、そうすると、何かがぼやけて、どこを目指すかという理解が追いついていなくなるかもしれないと思いました。

「松山」のアルファベット表記も考えた中で、「SETOUCHI」をアルファベットにする意義を自分なりに解釈していました。

檀会長

- ・ 伝えたい情報がぼやけないように、松山が中心となり、「SETOUCHI」の交流拠点として関わることを落とし込めたらよいと思いました。
- ・ その他にご意見等がありましたらお願いします。

岩田委員

- ・ 「まち」がつながるに話が戻りますが、県外も含めた不特定多数のまちと広くつながるというイメージだと思っていて、それはよいと思います。
- ・ 一方で、広域連携については、既存の連携事業がありますので、中予地方などの身近な地域との連携についても言及して、連携をより強めていくことを明示してもよいのではないかと思います。
- ・ 現在の内容だと、身近な地域とのつながりが見えてこないため、どこかに広域連携事業について記載してもよいと思いました。

檀会長

- ・ まちのつながりの中で、中予地方などの広域連携について、身近なつながりが見えてくるとよいと思いました。

高岡委員

- ・ 同じく、「まち」がつながるについて意見があります。
- ・ 若者の視点から、シビックプライドを持つことや松山をより魅力的に感じることに、松山内でのつながりも、もちろん大切ですが、他の地域との交流を大切にしていくことについても、記載があればよいと思いました。
- ・ 松山に住んでいながら、松山が良くなっていると感じることや、この地域をより好きになっていくことも大切だと思いますが、他の地域の方と交流することで、対外的な視点から客観的な意見をもらったり、松山での当たり前が当たり前ではないということに気付ける機会が、たくさんあると思います。

将来の進路を考える中で、このまちで暮らし続けたいという思いを醸成するきっかけとしても、対外的に交流する機会が大事だと思うので、松山の中のまちとまちもそうですが、交流拠点として県外や海外とどんどんつながるということも、強調されるとよいと思いました。

檀会長

- ・ 先ほど意見があった、松山の上空から見える穏やかな海の様子など、外に出ないと気づけない松山の良さや地域資源があると思いますので、海外も含めて、他地域とどのようにつながっていくのか、くっきりと見えるように落とし込めればよいと思いました。
- ・ その他お気づき点などありますでしょうか。

一同

(意見なし)

檀会長

- ・ 続いて、最後、「6. 総合計画の進行管理」について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ この点に関して何かご意見やご質問等がありましたらお願いします。
- ・ ウェルビーイングの観点で、市民の実感、市民の視点が加わることも大事なことでと審議会の議論を振り返って感じました。

佐川委員

- ・ 進行管理の中で、市民からの意見聴取を行ったり、自発的な考え方を持っていただくことを望むのであれば、進捗状況の透明性も非常に大切になるので、情報発信も盛り込んだ方がよいと思います。

檀会長

- ・ 進捗状況が市民に見えることも大切であるため、市から情報発信をすることで、市民にとってわかりやすく、実感につながると思います。
- ・ その他お気づき点などがありましたらお願いします。

高岡委員

- ・ 計画のスタート時点では「ポストコロナ」と言うことができる状況だと思いますが、今後それ以上のパンデミックや大災害が起こる可能性もありますので、フレキシブルに、状況に応じて計画を変えていく、状況に応じて柔軟に対応するという姿勢が示されていると安心できると感じました。

檀会長

- ・ 何が起こるか予測できない状況において、計画だけが突っ走るのではなく、災害や突発的な出来事に対して対応できるような柔軟性があると安心できるという意見をいただきました。
- ・ その他お気づきの点などがありましたらお願いします。

倉本委員

- ・ 全体像を示すイメージ図が入ると分かりやすいと思います。今後追加されると思いますが、イメージ図が挿入されると、理解がより進むと思います。
- ・ 今まで文章で書いてきたものを、イメージ図で分かりやすく表現するほか、進捗管理する上で、指標などを大きな範囲でもよいので明示していくと、もう少し理解がしやすくなると思います。

檀会長

- ・ 指標をどのように見ていくかは非常に重要な観点だと思いますし、資料4の基本構想（素案）に入ってくる全体像を示すイメージ図やビジュアルをどのように表現していくかはポ

イントだと思います。

- ・ 事務局もこの辺りは頭を悩ませている部分だと思いますが、イメージ図について補足がありましたらお願いします。

事務局

- ・ イメージ図に限らず、委員の皆様から市民にわかりやすくというご指摘をいただいております。
- ・ 事務局としても、従来のような、市民がなかなか触れることがない冊子がよいとは思っていません。

市民版として、分かりやすく、絵や図、言葉の入った冊子を作成しようとしています。

- ・ 前回、イメージ図を間に合わせると申し上げましたが、間に合っておりません。
- ・ 審議会では基本構想を確認していただいておりますが、これから基本構想が固まっていく段階に合わせて、基本計画を作成していきます。

第1回審議会で、資料5として政策・施策体系（案）をお示ししましたが、どのような柱で政策・施策を組み立て、その下にどのような取組や指標がぶら下がるか、市民に向けた可視化も含めて、今後検討していきたいと考えています。

倉本委員

- ・ 政策・施策体系（案）について、最初に見せていただいた際に、体系自体はよいと思いますが、こちらの基本構想に挙げている項目と、政策・施策体系（案）に書かれている項目が、どう一致していくのかがよく分かりませんでした。

それぞれを結びつけてみましたが、基本構想には出ていない内容が基本計画にあったり、逆もあったりと少し混乱しました。

それぞれの位置づけがよく分かっていないのですが、ランドデザインとして基本構想があって、それに基づいて基本計画があるならば、どの項目がどれに対応するのか、分かりやすく整理したほうがよいと思います。

- ・ また、政策・施策体系（案）がどのような並びになっているのか、組織区分に合わせた内容になっていないか、危惧しています。

もし、組織区分に合わせた内容になっているのであれば、1つの項目で組織がまたがる部分も出てくるとと思いますが、組織にとらわれず、項目に基づいてまとめた方が理解しやすいと思いました。

檀会長

- ・ 政策・施策体系（案）について、基本構想（素案）の項目とどのように結び付いているのかについて、組織ごとにまとめることもありうると思いますが、市民にとってわかりやすく提示することや、基本構想の項目が基本計画とどう対応するのか明確であることがポイントだと思います。この点について事務局より何か補足はありますでしょうか。

事務局

- ・ 基本構想の特に「まちづくりの方向性」については、昨年、若い世代を中心に1万人以上

の声を集めて、どのような松山市が理想的なあるべき姿かを取りまとめ、示したものであるため、時間軸の違いなどもあり、10年後に全部実現するのは難しい部分もあると思いますが、「こういった松山になってほしい」という夢を描く部分として、意見の最大公約数のような形で記載しています。

- ・ 一方で、基本計画の政策・施策体系（案）は、第1回審議会でお配りした時点では原案で、そこから内容を煮詰めて具体的に検討することになります。

ご指摘の通り、部局ごとに記載しているというわけではないですが、政策として11の柱を立てる中で、またがる部局も当然あります。

現在、内容を検討している最中ですので政策・施策体系の内容は変わっていきませんが、まちづくりの方向性がすべて政策・施策体系につながって整理できるわけではありません。

- ・ 次期総合計画は、みんなで作る計画としていますので、計画の進行管理をする中で、まちづくりに関わるステークホルダーが民間、大学、市民などそれぞれの立場で、自分にできることも含めて、議論ができるように検討を進めていきたいと考えています。

影浦委員

- ・ 「人」がつながるの個別⑥に「未就学児から学童まで、切れ目のない子育て支援が大切である」とありますが、「切れ目のない子育て支援」は、妊娠・出産期を含んだ内容ですので、生まれてから学童までに限定された表現になってしまうことを懸念しており、「妊娠・出産から」としたほうがよいと思いました。
- ・ また、私もイメージ図がどうなるのか期待しています。
- ・ まちづくりの方向性の「人」、「まち」、「仕事」は分かりやすく、この3つの方向性はよいと思います。
- ・ 多くの市民からキーワードとして「自然」が挙げられていましたが、市民が松山に住んでいてよいと思うのは、すぐそばに自然があり、何となく便利で、コンパクトな点ではないかと思います。一方で、外から来た方は、「SETOUCHI」の景色全体や、島の穏やかな様子を見てくれているのだと、今日お話を聞いていて感じました。

最初は一市民としてアルファベット表記の「SETOUCHI」に違和感がありましたが、もしかするとアルファベット表記の「SETOUCHI」と市民の皆さんが大切にしたい「自然」はつながっていて、それがイメージ図で表現されるとよいと思います。イメージ図の背景となる四角の部分が自然や SETOUCHI になるのかもしれないと思いながら、楽しみにしています。

檀会長

- ・ イメージ図について、単純に「人・まち・仕事」の3つの要素が弁図のように書いてあるだけではなく、うまくビジュアル化して、「SETOUCHI」というバックグラウンドがある中で、どうわかりやすく見せるかが大きなポイントになると思います。
- ・ また、「切れ目のない子育て支援」については、子育てにつながる出産前の妊娠の段階も含むということをうまく表現できればよいと思いました。
- ・ その他にいかがでしょうか。

井口委員

- ・ 内容としてはよい意見がまとまっていると思いますが、答申書として文章にする時に少し工夫していただきたいところがあります。
- ・ 「２．総括的事項」の⑤と⑧は似ているところがあり、⑤は「松山市の地域の特性は様々であるため、現状と課題」を把握して策定にいかしましょうという内容で、⑧は「多様な地域性を考慮」して、様々な意見を反映しましょうという内容ですが、「中心部と郊外では意見の違いがある」と表現してしまうと、市民の想いとは少し異なると思います。
- ・ ⑤では、地域特性はいろいろと異なっているため、それをいかしましょうという内容、⑧では、こどもも大学生もみんなの意見を踏まえていますので、世代や立場の異なる人々の多様な意見や多様な地域を考慮して計画に反映するといった言い回しにする方が市民の皆さんにやさしく伝わると思いました。
- ・ また、「４．将来都市像について」の②の書き方について、以前他の委員がおっしゃっていた、「競い合うようなものではなく、オンリーワンのまちをめざしましょう」という意見に非常に賛同しており、交流拠点として、他者と競い合って比較するのではなく、つながりましょう、共に生きましょうという内容の将来都市像ではないかと思います。

そういう意味では、「松山市の独自性をしっかりと発揮して、いろんな人やまちと協力・連携しながら、将来都市像を実現することが、差別化につながる」といった表現にした方がよいと思います。違いを出すよりも、オンリーワンを磨き上げるという文章のほうがふさわしいと思いました。

- ・ さらに、(１)「人」がつながるの全体②に「喪失した地域住民の誇り」とありますが、「喪失」とは完全に失ったことを指す、とても強い表現です。喪失と復活という表現を用いると、文化的には、無くしたものを復活させるということになります。

全くないわけではないと思いますので、もう少し言葉を柔らかくして、「少し下がっている」や「高める」、「育てる」といった表現の方がよいと思いました。

- ・ (２)「まち」がつながるの個別④について、内容としては問題ないのですが、現在の表現だと、自転車に関する項目を追加してほしいという誤認を生む可能性があります。道後に来た人が例えば離島をまわったり、自転車を活用したり、松山の多様性を踏まえた観光ができるようになるという意見で、移動手段は自転車に限らないと思いますので、「自転車」に関する表現は後ろに下げて、「松山の多様性を踏まえた」という内容を強調した方がよいと思います。
- ・ (３)「仕事」がつながるについて、他の委員から、医療や福祉、保育分野のワーカーの確保がこれからは大切だという意見があり、非常に感銘を受けました。

私たちの日常生活を維持するエッセンシャルワーカーと言われる方々を「様々な産業」という表現で一括りにしたのでよいものかと思いました。

個別の項目は、攻めの一手に関する表現が多く、これからも経済活動を盛り上げていこうとする内容ですが、人を支える福祉や教育産業に対して配慮する項目や文言を一言でも入れた方がよいと思います。

- ・ 「様々な産業」に含まれることは認識していますが、少しだけ取り出して表現しておいた方が、実現可能性が高まるのではないかと思います。

檀会長

- ・ 多岐にわたるご意見ありがとうございます。
- ・ 特に最後のエッセンシャルワーカーが産業にどうつながるのかという部分が大切だと思いました。
- ・ また、「まち」がつながるの個別④については、自転車に限定された表現になっていますが、徒歩や自転車、人力車などの移動手段もありますので、多様な観光手段、移動手段ということを出せるとよいと思います。
- ・ また、「人」がつながるの全体②「喪失」という表現は誤認を招き、2. 総括的事項の⑧「中心部と郊外では意見の違いがある」という表現は対立構造があるように受け取られてしまうため、答申書にまとめる際には、表現をマイルドにする必要があると思いました。
- ・ 「4. 将来都市像」については、松山の独自性をいかに発揮するかについて、審議会でも当初から議論されてきましたが、どのまちにもあるようなものを打ち出すのではなく、オンリーワンの松山をどう打ち出すのか検討し、将来都市像を強調できればよいと思いました。
- ・ その他にご意見等はいかがでしょう。

高田委員

- ・ 総合計画の進行管理の PDCA サイクルについて、Plan が基本計画や実施計画で、Do が実施計画、それらを Check して Action の改善としては、何を改善するのか、教えていただきたいです。
- ・ KPI の設定や市民の意見をいただいた項目など、どこをどう改善していくのか、大元のビジョンは変えないが、細かな実施計画を変えていくということなのか、少し混乱しているため、全体像を改めて教えていただきたいと思います。

檀会長

- ・ KPI で評価する段階では、細かな事業単位に落とし込んでいくと思いますが、事務局より説明をお願いします。

事務局

- ・ 基本構想は今後10年の方向性ということで、変わることは想定していません。
- ・ 外部評価の体制は定まっていますが、基本的には基本計画に指標を設けて、市民意見なども踏まえて、評価を得ながら取組を改善していくことを想定した PDCA サイクルとなっています。

檀会長

- ・ その他にご意見等いかがでしょう。

高岡委員

- ・ (3)「仕事」がつながるについて、全体を通して、松山の企業や農林水産業に対して積極的にバックアップしていくことや、労働力不足、後継者不足に対して新たな人材や起業、

デジタル化などで対応するということが記載されていると思います。

既にある企業や農林水産業の従事者の持つ力の底上げも大切だと思います。環境が整っていないと外から来た人材も定着しづらいと思いますし、企業や農林水産業の従事者が成長していった時に、市外に流出してしまうと思います。既存の企業や従事者の経済力や生産性の底上げを図るために、地域事業者のデジタル技術や SNS の使い方などの知識の向上を図るといった内容が入ると良いと思います。

檀会長

- ・ 既存の企業が SNS も含めてデジタル技術を活用しながら、労働生産性を向上し、できることを増やしていくという、デジタルトランスフォーメーションの取組も大切になってくるという意見をいただきました。
- ・ 基本構想（素案）の内容について、ご意見を頂戴しましたが、序論（案）の部分も含め、計画全体を通して付け加えたいことなどありましたら、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

堀副会長

- ・ 序論（案）を読み返してみると、「1. はじめに」の「①目的」の文言で少し変だと思ったのが、2 ポツ目に、「大規模災害への対応などの課題がある一方、新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけにデジタル技術が進展」という点です。すでにデジタル技術は進展はしていて、コロナ禍で活用や普及、利用が拡大したと思いますので、文言を検討いただけたらと思います。
- ・ また、次のページの（2）「①松山市のあゆみ」についても、以前の審議会で意見があったと思うのですが、今後修正されるのか、そのままなのかが分かりませんでした。
- ・ 序論（案）1 ページの三角形の図も、このままでよいのかというご意見があったと思いますが、どう対応するのかご検討いただきたいと思います。

檀会長

- ・ ご指摘いただいた通り、コロナ禍でデジタル技術が進展したということではなく、すでにあるものが活用されるようになったと思います。
- ・ 三角形の図についても議論があったと思いますが、事務局から捕捉はありますでしょうか。

事務局

- ・ 本日は答申の対象となる基本構想について確認していただきました。
- ・ 冒頭にも触れておりますが、審議会では、序論についてもご意見をいただいておりますし、これから策定する基本計画に入れたほうがよい意見もありました。三角形の図も含めて、いただいたご意見はすべて検討材料としています。また、松山市議会の特別委員会から基本構想（素案）に対する提言の提出があり、7月9日から8月7日までパブリックコメントも実施しています。
- ・ 様々な意見を踏まえて、最終案にしたいと考えていますので、いただいた貴重なご意見は反映させていただくものもあれば、参考にさせていただくものもございます。

高田委員

- ・ 基本構想（素案）の冒頭「（１）これからのまちづくりに向けて」で、「小説『坂の上の雲』の人々のように」という文言があり、唐突感があるという意見もあったかと思いますが。この表現がその後のまちづくりの方向性の「まち」がつながるで文化芸術の中で言及されていないため、小説『坂の上の雲』をあえて入れることについて、どのように取り扱うか検討が必要だと思います。

檀会長

- ・ 急に『坂の上の雲』が出てくることに、違和感があるという意見も確かにありましたが、恐らくオンリーワンの松山を打ち出すときのポイントになると思います。事務局から何かコメントはありますでしょうか。

事務局

- ・ 「（１）これからのまちづくりに向けて」については、多くのご意見をいただきました。
- ・ 例えば、『坂の上の雲』の部分を除いた時に、松山市ではなくて他都市でも通用するというご意見もいただきました。
- ・ また、アルファベット表記の「SETOUCHI」の説明をもう少し詳しくしたほうがよいというご意見もいただいていますので、かなり修正を加える予定です。
- ・ 『坂の上の雲』に関する表現について、松山市は、『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想でまちづくりを進めていますし、時代の転換期である、明治と現在を置き換えた時に、未来に向かっていくという、松山市民のマインドは残したいと考えていまして、様々なご意見を伺った中で修正を加えていきたいと思います。少なくとも唐突感はなくしたいと思います。

檀会長

- ・ 唐突感は修正しながら、皆様からいただいた意見をうまくまとめる形で最終文案は仕上がると思います。

佐川委員

- ・ 資料６の「総括的事項」の②で「どのような対象をターゲットにしてまちの魅力を高めながら『住みたいまち』、『住み続けたいまち』にしていくのか明確にする」とあります。ターゲットの設定はビジネスではあり得ると思いますが、一方で、③には「松山市が『住みたいまち』、『住み続けたいまち』であるために、性別や障がいの有無、国籍などに関わらず」とあらゆる属性の人を対象にした表現があります。

市の施策として、ターゲットを明確にするというよりも、「すべての属性の人々に対して、それぞれの魅力を高めながら」といった表現に変えたほうがよいと思いました。

檀会長

- ・ 確かにこのように表現すると、ターゲット以外の人の意見は反映されないという風にも読

めてしまうかと思います。

どのような属性であっても、それぞれの属性に応じたまちづくりを明確にしていくことがポイントになると思います。

- ・ 答申案へ落とし込む際にはうまくまとめていきたいと思います。

竹下委員

- ・ 資料6「人」がつながるの個別⑧に、「子どもや高齢者、障がい者、主婦など様々な立場の人が誰かに対してできることを具体的に示す」とあるのですが、この文の意味するところが分かりません。
- ・ 「主婦」が職業のように読めるため、他の表現と対応させるのであれば、例示としては、主婦ではない方がよいと思います。「女性」のことを指しているわけではないと思いますし、立場が弱い人のことを指しているのであれば、「外国人」も入ると思います。そうすると、表現がおかしいと思います。

そのような点を踏まえると、これらの人々が誰かに何かをするということではなく、これらの人々に対して、誰かが何かをするという表現の方が適切ではないかと思いました。

内容を明確化したほうがよいと思います。

檀会長

- ・ 「主婦」というのは「主夫」という表現もありますし、盲点でした。
様々な立場の人が支え合うという観点からすると、「主婦」の部分は再考が必要であるということや、例示に外国人も含めてはどうかということも合わせて、⑧の表現の整合性が取れるとよいと思いました。

高岡委員

- ・ 資料6の2ページ「3. まちづくりの理念」の①に「ポストコロナの中で新たにつながっていくための、取組に反映していくことが大切である」とありますが、コロナは2020年頃から2022年頃には、かなり収まって、4年ほど経っていると思います。ポストコロナはまさに今で、終わりがけではないかと思います。
あくまでもスタート地点がポストコロナであって、今後がポストコロナの時代ということではないと思い、気になりました。
- ・ これからの時代を指すのであれば、例えば「デジタルシフトの時代の中で」などの表現の方が適切ではないかと感じました。

檀会長

- ・ 確かに今がポストコロナで、10年後はポストコロナとは言えないと思います。
- ・ 「デジタルシフト」などのキーワードで今後10年を表現するというのは貴重な意見だと思いました。
- ・ 多岐に渡り活発にご意見をいただきましたが、その他いかがでしょうか。

堀副会長

- ・ どこに記載のある文言か定かではありませんが、外国人の就労関係について、留学生や技能実習生に関する記載があり、技能実習生は将来的に「育成就労」などに名称が変わることや、留学生は本来勉学の目的で留学しており、労働力としては期待してはいけないことを踏まえて、文言の工夫が必要だと思います。（事務局注釈：序論（案）時代の潮流 3 グローバル社会への対応に記載）

檀会長

- ・ 資料6の5ページ「仕事」がつながるの「個別」②の部分に、「外国人など多様な労働者が活躍できる働き方」と記載がありますが、技能実習生などの名称が変更になること等を踏まえながら、工夫できる余地があるというご意見でした。
- ・ 他にご意見等はいかがでしょうか。

一同

（質疑・意見なし）

（3）今後のスケジュールについて

檀会長

- ・ 次に「今後のスケジュール」について、スケジュールと合わせて、審議会で委員の皆様からいただいたご意見が、最終的にどのように答申という形で反映されるのか、イメージの共有をさせていただきたいと思います。
- ・ 事務局より説明をお願いします。

事務局

（事務局説明）

檀会長

- ・ この件に関しまして、何かご質問やご意見がございましたらお願いします。

一同

（質疑・意見なし）

3. 連絡事項

事務局

（事務局説明）

4. 閉会

以上

第4回松山市総合計画審議会委員名簿 出席者名簿

役職	氏名	所属等
会長	檀 裕也	松山大学 副学長
副会長	堀 利栄	愛媛大学 大学院理工学研究科 教授
委員	井口 梓	愛媛大学 社会共創学部 地域資源マネジメント学科 准教授
委員	岩田 和之	松山大学 経済学部 経済学科 教授
委員	大石 紗己	独立行政法人 国際協力機構 愛媛デスク 国際協力推進員
委員	影浦 紀子	松山東雲女子大学 人文科学部 心理子ども学科 准教授
委員	倉本 逸男	公募
委員	坂谷 安遥	公募
委員	佐川 東輝枝	公益財団法人 えひめ女性財団 理事
委員	高岡 奈々葉	公募
委員	高田 名奈	株式会社日本政策投資銀行 松山事務所 副調査役
委員	竹下 浩子	愛媛大学 教育学部 准教授
委員	武田 孝二	全国農業協同組合連合会 愛媛県本部 副本部長

(敬称略・五十音順)